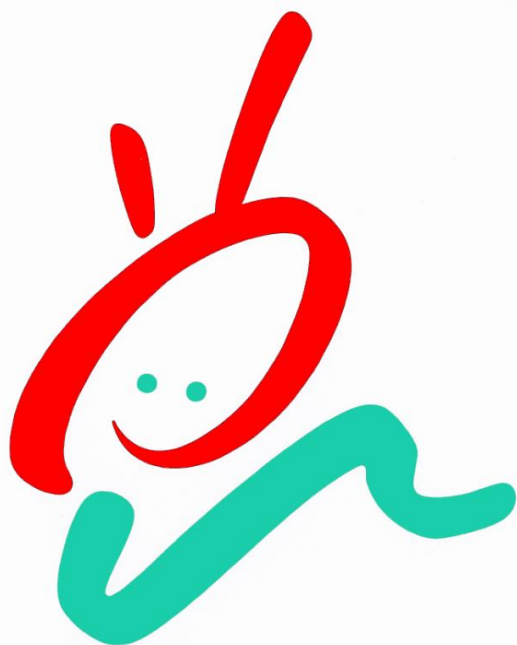


新潟県農協青年連盟
(JA新潟県青連)
ポリシーブック2025



JA YOUTH

新潟県農協青年連盟 (JA新潟県青連) ポリシーブック

目 次

- JA 青年組織綱領
- JA 新潟県青連ポリシーブック作成にあたって
- 「JA 新潟県青連ポリシーブック」
 1. 青年組織活性化について
 2. 担い手対策について
 3. 農業政策について

J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探究し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである（平成 17 年 3 月 10 日制定）

ＪＡ新潟県青連ポリシーブック策定にあたって

ＪＡ青年組織のポリシーブックは、盟友が日々の営農や青年組織活動で感じる課題を共有し、解決の道筋を示す「活動指針」です。

本県では、令和３年度にＪＡ新潟県青連のポリシーブックを作成しました。また、年度ごとに農業を取り巻く情勢等を考慮し、適宜、内容の見直しを行っています。

本県のポリシーブックは、全単組から提出されたポリシーブックの中の共通の課題に対して、県青連として解決につながる取り組みについて検討したものです。

ポリシーブックは策定すること自体が目的ではなく青年組織の根本的な指針として、その課題解決を真剣に考えたうえで、事業計画に反映、着実に実践を図ることが重要です。

このため、当ポリシーブックは幅広く課題を設定するのではなく、県青連として対応・実践することが可能な内容や範囲にしています。

我々を取り巻く様々な課題を、部員の英知と行動力をもって乗り越え、農業とその営みを、次世代へ繋いでいかなければなりません。

結びに、各青年組織で策定したポリシーブックに基づき、ＪＡグループ・市町村・県・国へ働きかけていきましょう。また、その働きかけは、着実に青年組織の強化につながると確信しています。

令和７年２月

新潟県農協青年連盟
(ＪＡ新潟県青連)

青年組織活性化について

【課題】

- 青年部への新規加入者が少ない。
- 青年部活動に消極的な部員が増加している。
- 組織に入ると役員にさせられる等大変になる。

【県青連としての取り組み】

- 青年部加入のメリットを明確に示す。(HP・ラジオなど)
- 青年部活動の内容や魅力について、マスメディアやSNS等を活用し、情報発信の強化をはかる。
(例:各単組のフェイスブックの立ち上げの促進)
- 盟友同士で話し合いの機会を設け、目指すべき方向性を明確にするため全単組でのポリシーブック作成の支援と、その活用をサポートする。
- 全単組において、JA常勤役員との懇談会の設定を働きかける。
- 各単組間の交流の場を作る。
- 4Hクラブ・青年農業士との連携をはかる。
- 他県青年部との交流など、人脈や視野を広げられる取り組みを行う。
- 青年部の未設置JAに設立を呼び掛ける。
- 県青連への未加入単組に加盟を呼びかける。
- 合併に伴う組織再編のサポートを行う。

【JAグループに対する取り組みと要望】

- 中央会常勤役員との懇談会を通して、JAグループへの青年部の意思反映に取り組む。
- JA青年部の事務局体制の整備や強化、資金面での支援等を要請する。
- JAグループのCMで、農業の魅力を前面に打ち出してもらう。
- 各JAの広報誌におけるJA青年部の活動紹介を掲載してもらう。
- JAにおける青年部枠の役員を拡大してもらう。
- 県青連と中央会で連携して青年部の未設置JAに設立を呼び掛ける。
- 県青連と中央会で連携して県青連への未加入単組に加盟を呼びかける。

担い手対策について

【課題】

- 新規就農者や若手農家へのバックアップが十分でない。
- 担い手となる人がいない。
- 高齢化により年々遊休農地や耕作放棄地が増加している。また、その農地を借り上げて耕作を再開する人もいない。（特に中山間地域）
- 既存の担い手では地域の農地を受けきれなくなっている。
- 稲作重視の経営が多く、経営が安定化しない。

【県青連としての取り組み】

- 新規就農者が増えるよう、認知度アップにつながる広報対策を企画・実践する。
- 将来的に、地域のリーダーとなって地域をまとめていく人材を育成するような研修会を開催する。
- 県内外の優良事例紹介の場面を設ける。

【ＪＡグループに対する取り組みと要望】

- 担い手が多様化・大規模化していることから、個別対応を充実させることを要望する。
- 新規就農者や後継者育成のための勉強会を開催する。
- 迅速な情報提供を行ってほしい。また、それらを簡単に入手できる仕組みを作ってほしい。
- 担い手に対して専門的指導ができるような営農担当職員の育成を可能とする教育体系を構築するとともに、計画的な職員育成を図ってほしい。

【行政への要望】

- ＩターンやＵターンなども含めた働き手確保のための制度・政策を充実してほしい。
- 新規参入者が地域に定着しやすい環境整備などの対応を行ってほしい。

農業政策について

【課題】

- 農業政策が毎年変わるうえ、補助金制度の内容がわかりづらいため活用しづらい。
- 国の政策は、大規模農家・法人に向けた制度が多く、中小規模の家族農業には活用できないものが多い。
- 肥料・飼料・燃料の価格高騰により、農業経営が圧迫している中、販売価格に転嫁することが十分にできていない。

【県青連としての取り組み】

- 地元選出の議員に対し、農業の実態や課題を伝えとともに、ポリシーブックに基づいた要請を行う。
- 農政機能を強化するため、農業・農村政策に関する研修会、制度の理解醸成に向けた研修会を開催する。

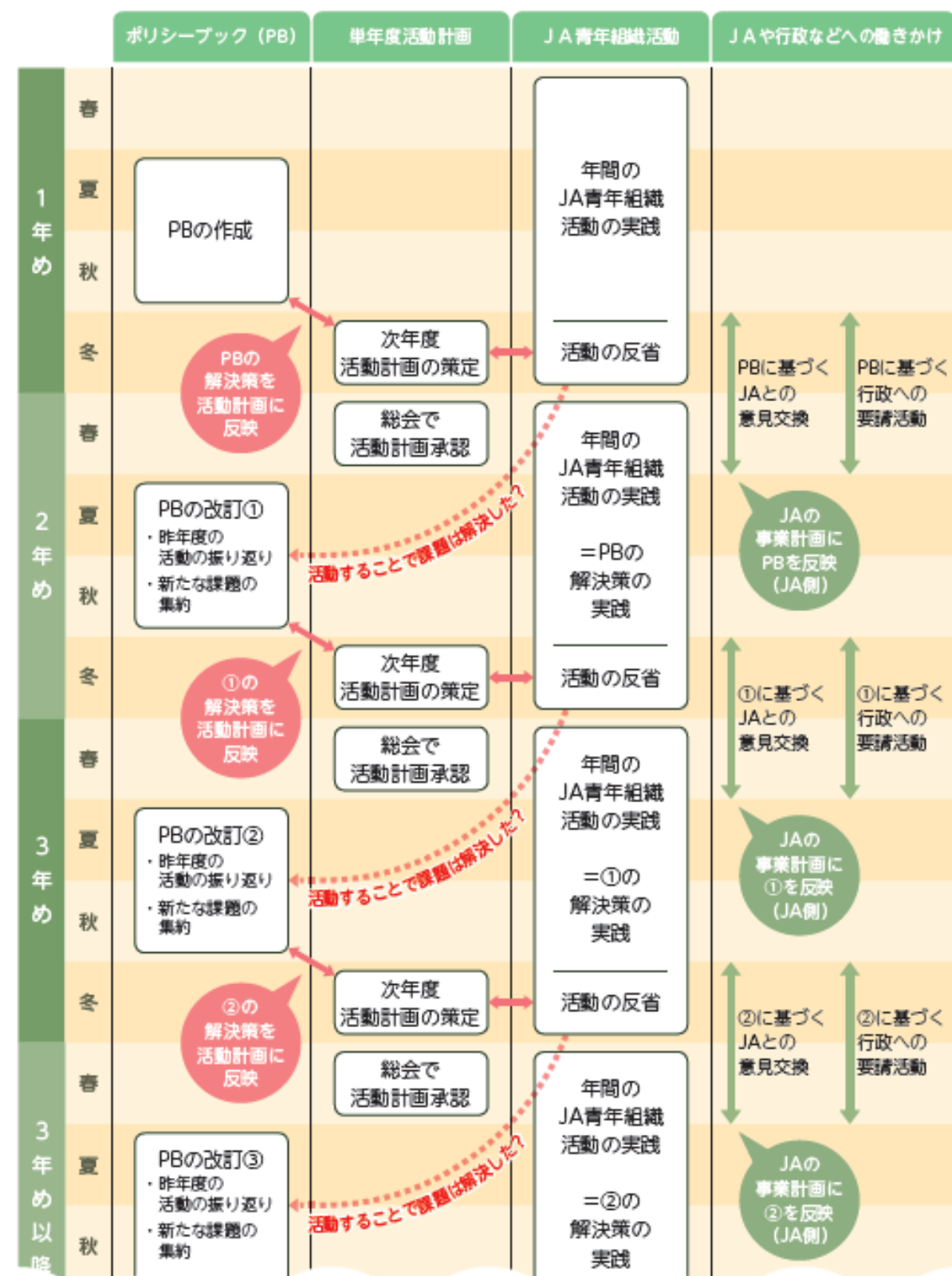
【ＪＡグループに対する取り組みと要望】

- 農業・農村政策に関する情報提供・説明会の開催をしてほしい。
- 青年部が求めている要望をこれまで以上にくみとることができるような仕組みをつくってほしい。

【行政への要望】

- 補助金制度に関する情報について、簡単に入手できるようにしてほしい。また、わかりやすい資料にしてほしい。
- 振興局単位で県の農村・農業政策に関する意見交換会を実施してほしい。
- 生産資材価格の高騰など、生産コストの増加分を価格転嫁できるような態勢の構築を要望する。

ポリシーブック作成・活用のスケジュール例



JA青年組織では、1年の活動の振り返りを行い、次年度の活動計画を策定しますが、併せて活動がポリシーブックの解決策となっているかどうかを点検することがポイントです。ポリシーブックの改訂では、前年度の活動を振り返り、課題が解決したかどうか、課題が解決していない場合は、そもそも課題の設定や解決策が適切だったのかを考えてみる必要があるでしょう。